

保幼小連携・接続実践事例パンフレット

保幼小連携・接続で のびる子供たち



～人をつなぐ・組織をつなぐ・教育をつなぐ～

令和7年3月
高知市教育委員会

保幼小の連携・接続，やってみるとこんなにいいこと！

年間計画例

4月	園長・校長会 (年間計画の調整・確認)
	連携・接続の取組を全体共有 (各園・各校)
5月	保幼小連絡会① (スタートカリキュラム公開授業)
6月	
7月	5歳児公開保育・協議
8月	保幼小合同研修会 (架け橋プログラムの進め方等)
9月	スタートカリキュラムの取り入れ 1年生公開授業・協議
10月	交流活動① (公園での秋見つけ)
11月	保幼小連絡会② 〔交流活動①の振り返り〕 〔交流活動②の計画等〕 就学時健診(保護者説明)
12月	交流活動② (学校での秋のおもちゃ遊び)
1月	保幼小連絡会③ 〔交流活動①②の振り返りを〕 〔踏まえ，交流活動③の計画〕
2月	交流活動③ (一日入学)
3月	引き継ぎ会 園長・校長会 (年間計画の振り返り)
	要録送付

人をつなぐ

P6

安心

小学校入学前からの園児と児童の交流や，年長児保護者への働きかけとして小学校生活についての説明会など，「人をつなぐ」取組を行うことで，子供や保護者に安心感が生まれます。



組織をつなぐ

P5

理解

保幼小の教職員の合同研修会や，公開保育・公開授業をもとに互いの実践を知る場を設定するなど，「組織をつなぐ」取組を行うことで，子供の学びと育ちに関する保幼小の教職員の共通理解が進みます。



教育をつなぐ

P2～4

成長

保幼小の教職員による子供を真ん中にした話合いを通して，接続期のカリキュラム(5歳児後半のアプローチカリキュラム，小学校入学当初のスタートカリキュラム)や架け橋期のカリキュラムの作成・実施・改善を行う「教育をつなぐ」取組によって，互いの保育・教育の理解が深まり，発達に応じた指導・支援につながります。



「幼保小の架け橋プログラム」

子供に関わる**大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働**し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で**全ての子供に学びや生活の基盤を育めるようにすること**を目指すものです。

5歳児から小学1年生の2年間は「架け橋期」と位置付け、入学前後だけでなく、「架け橋期」のカリキュラムに焦点を当て、架け橋期にふさわしい**カリキュラムを作成・評価**することで、「**学びをつなぐ**」教育を実現していきます。



幼児期

生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期

児童期

4歳児

5歳児

接続期

1年生

2年生

幼児教育施設

小学校以降の教育を見据えて、小学校以降の学習や生活の基盤の育成を行う

小学校教育の**前倒しではない**

小学校

幼児期に育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を充実させる

考えたいスイッチを入れよう

保育者の関わりや
環境構成を工夫する

主体的な遊びの中で
試行錯誤し、考えたり、
工夫したりする

子供主体

小学校での学習や
生活を楽しんでいる

学校を自分の居場所
として認識できる

架け橋期のカリキュラム

幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと、小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、**地域の幼児教育・保育と小学校教育の関係者が連携して作成**します。

カリキュラム作成がゴール(目的)ではありません。

実質的な話合いや実践を重視しながら、話合いで出てきた指導上の留意事項等を言葉等で**少しずつ「見える化」**していきましょう。

詳しくは、
高知県教育委員会
HPへ！



◎モデル地域のカリキュラム掲載(園・小学校)
◎カリキュラムテンプレート
◎活動事例
※架け橋プログラムDVDもご覧になれます！



「架け橋プログラムDVD」 園で、学校で、連絡会で、ぜひご活用ください！



春野東小学校区での取組を分かりやすくまとめたDVD(全編60分)

架け橋プログラムとは？

第1章 幼児教育と小学校教育をつなぐ架け橋期の教育(6分)

第2章 架け橋プログラムの進め方(16分)

第3章 架け橋期の教育の充実に向けて学びをつなぐ(19分)

第4章 成果・まとめ(15分)

園・小学校・自治体の役割
について紹介！

保育・授業・交流活動の
実践を紹介！

【子供をまんなかにした話し合いを通して学びをつなぐ架け橋プログラムの取組
～架け橋期の教育の充実に向けて～】(高知県幼保支援課作成DVD: 令和6年3月)

【Step①】「架け橋, やってみん?」 ～興味をもった学校・園からの発信～

- ①既存の会等を利用して、「架け橋プログラムに取り組んでみませんか?」と提案してみる。
- ②これまで連携していない園があれば、学校または連携している園からその園を誘ってみる。
- ③園内・校内の研修で、「架け橋プログラム」の意義や考え方、ねらい、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」などを確認し、全教職員で共通理解する。

お互いを理解するための研修や
情報交換, 交流のスタート!



【Step②】「目指す子供像」を共有しよう!

◆校区内の子供の「よさ」と「課題」を出し合い、どのような姿になってほしいのかを共有しましょう。

1【各園・学校での話し合い】

- ◆**子供の実態**(よさと課題)を出し合い、**目指す子供像**について話し合う。

2【連絡会での話し合い①】

◆**目指す子供像を決める**

【話し合いの進め方(例)】

- ①各園・学校で話し合った、子供の「よさ」と「課題」を出し合う。
- ②内容をまとめて整理し、どんな子供に育ってほしいか話し合う。

コミュニティ・スクールの「目指す子供像」など、既存のものを活用することも可能です。



【Step③】大切にしたい活動や経験を位置付けよう!

◆「目指す子供像」の実現に向けて、どんな活動や経験を重点とするのか明らかにしましょう。

→校区で「**共通して充実を目指す活動・体験**」の項目を決める。

1【各園・学校での話し合い】

- ◆ 目指す子供像の実現のために育みたい資質・能力を明確にし、**必要な活動や経験**を話し合う。

2【連絡会での話し合い②】

◆**必要な活動や経験**を出し合う

- ・栽培活動
- ・生き物との関わり
- ・自然物を使った遊び
- ・交流活動 等

複数園あるモデル校区では、年間計画をもとに各園で展開されている遊びや活動について出し合い、共通している「大切にしたい活動や経験」を見いだしました。



モデル地域の例

【5歳児で大切にしたい経験】

- ・生活の場を広げる
- ・季節ごとの自然やものとの関わりが広がる
- ・素材や材料を工夫する
- ・共通の目的を見出す
- ・イメージや考えを共有する
- ・クラスの仲間と力を合わせる
- ・自信をもって生活する

【1年生で大切にしたい経験】

- ・期待感をもつ
- ・幼児期の経験を生かす
- ・安心・安全に過ごす
- ・自己発揮する
- ・生活上必要な習慣や技能を習得する
- ・直接的に働きかける
- ・試行錯誤する
- ・気付きの質が高まる
- ・振り返る

遊びを通した学び等について、幼児の遊んでいる姿や幼児教育施設と小学校の先生のインタビューを交えながら解説しています。



「遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽” ～「やってみたい」から始まる学びの芽 (知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力)の育成～」(動画コンテンツ:7分20秒)【文部科学省】

【Step④】互いの実践を見合い、教育内容を話し合う！

重要

～校区の課題解決に向けて～

5歳児の公開保育や1年生の公開授業等に協議まで参加し、実際の子供の姿の事例を通して話し合う

公開保育



何をどのように学んでいるか

公開授業



目指す子供像の実現に向けて必要な「先生の関わり」や「環境づくり」は何か

交流活動



幼児期の学びが小学校の学習にどのようにつながっているか

アドバイザー等を招聘することで、互いの教育内容の理解が更に深まります。



【Step⑤】これまでの話合いや実践を踏まえて「架け橋期のカリキュラム」を協働して作成する～実践の見える化～

架け橋期のカリキュラム（保育所・幼稚園・認定こども園）（案）

めざす子供像の実現に向けた共通して取り組みたい指導

〇〇小学校区
めざす子供像

【Step②】「目指す子供像」

カリキュラムを作成する意義

- 小学校以降の教育を見通した保育実践につながる
- 幼児期の経験や指導上の配慮を踏まえた授業づくりに生かせる
- 自分の指導の振り返りができる
- 共通の視点で、育ちや学びのつながりをみる(参観する目ができる)

【Step③】大切にしたい活動や経験



カリキュラム作成・実施のポイント

- モデル地域の「架け橋期のカリキュラム」を活用し、園と小学校が協働して作成しましょう。
- 実質的な話合いや実践を重視しながら、話合いで出てきた指導上の留意事項等を言葉等で少しずつ「見える化」していきましょう。
- カリキュラム作成が目的(ゴール)ではありません。



モデル地域の「架け橋期のカリキュラム」

【Step⑥】カリキュラムを実践・評価・改善していく取組の定着

組織をつなぐ

相互理解につながる公開保育・公開授業

5歳児園内研修



【公開保育】



【事後協議】

【保育を見る視点】

- 誰がどこで、どのように遊んでいたか
- 何を楽しんでいたのか
- その姿につながった環境構成(場の構成・材料・もの)と保育者の援助



具体的な姿(表情・動き・言葉など)を捉える。

「保育をみる視点」
県幼保支援課作成

【協議の視点】

- ① 子供の具体的な姿(事実)
- ② ①の姿から育っている力
- ③ ①②につながった環境構成や援助

具体的な姿(表情・動き・言葉など)を踏まえ、ねらいにせまるための効果的な環境の構成や援助について協議します。

ファシリテーター(進行役)とグラフィッカー(記録役)を決めると、進めやすいです。



協議の進め方例(公開保育・公開授業)

【用意するもの】付箋、ペン、カラーペン、模造紙

※協議までに、参観者は付箋を書いておく

① 子供の具体的な姿(事実)をできるだけ具体的に記す。【黄色】

② ①の子供の姿からどのような力が育ちつつあるのかを記す。その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や3つの資質・能力をベースに育ちを捉える。【桃色】

③ ①②の子供の具体的な姿につながった環境構成や援助について記す。【水色】

1枚の付箋には、事実を一つ記し、複数で活動している場合でも、特にどの子供のどの様子に着目したかを記す。

- 1 保育者(授業者)から
・本日の保育(授業)について
- 2 グループ協議(付箋をもとに協議する)
(1) 【黄色】と【桃色】の付箋を同時に出して共有する。

付箋は、同じ場面もしくは、資質・能力ごとにまとめる。

- (2) (1)の付箋につながった環境構成や援助について話し合う。【水色】
- (3) 本日のねらいや目標が達成されたか、また適切であったかを話し合う。
- (4) 明日からの保育につながる改善策を共有する。(さらにねらいにせまるための環境構成や援助について検討)

- 3 シェアリング
・各グループの協議内容を共有する。
- 4 アドバイザーより講評

1年生公開授業

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、園と小学校の先生が、子供の育ちを中心に据えた対話を通して、相互理解・実践を深めていきましょう。



【公開授業】



【事後協議】



【協議シート】

1回目 (10月)

1年生→園

児童が自分の
成長を自覚

年長さんと仲良く遊ぼう

「名前、書ける？」



2～3人の
活動

5歳児の
主体性を育む

めあてと
振り返り

【時程】

- 9:50 はじめのあいさつ
・めあて
・活動の確認
・校歌のプレゼント
・先生方の自己紹介
- 10:00 ペアづくり
・自己紹介
・名前カード作り
・手遊び(園の先生より)
- 10:20 いっしょにあそぼう
・かみつ列車
- 10:40 つくってあそぼう
・紙コップ飛行機
- 11:00 プレゼント
- 11:10 振り返り
①ペアで
②1年生から
③年長さんから
④園と学校の先生から
- 11:20 終わりのあいさつ

2回目 (11月)

5歳児→学校

年長さんともっと仲良くなりたい
「あきまつりだいさくせん」

1回目と同じメンバーで
活動

安心感



5歳児も一緒に
お店屋さん

達成感

満足感

「してあげる」「してもらう」
関係からの脱却

【時程】

- 10:00 はじめのあいさつ
・めあて、活動の確認
- 10:05 ペアづくり
・手遊び(なべなべそこぬけ)
①ペアで
②グループで
- 10:20 おまつり交流
【前半】10:20～10:35
(準備・引き継ぎ等10分)
【後半】10:45～11:00
【お楽しみタイム(10分)】
・園児がやりたい遊びを選ぶ
- 11:10 振り返り
①チームで
②1年生から
③年長さんから
④園と学校の先生から
- 11:20 終わりのあいさつ

3回目 (1月)

5歳児→学校 (一日入学)

ようこそ「もうすぐ1年生」

【連絡会で、幼児の実態ややりたい
ことを共有】



学校探検、おべんきょう、タブレット、
かけっこ、おにごっこ、給食 等

幼児の実態ややりたいことを
踏まえた内容

教科書を一緒に
見合う活動も
お勧めです！

【時程】

【交流1(体育館)】

- 9:20 ①はじめのあいさつ
②園児から挨拶・歌
9:30 ③グループで学校探検
10:15 体育館集合、トイレ
10:25 運動場で遊ぶ(休み時間)
10:55 5年生の合奏鑑賞

【交流2(1年教室)】

- 11:05 タブレット体験、ひらがな
おみやげ渡し
11:25 終わりの会
・感想を言い合う
・終わりのことば

自分たちで創る
一日入学

◆「教師が考えた内容のとおりには子供が動く」 一日入学からの脱却！！

幼児の気持ちは？
1年生がやりたいこ
とは？

何のための
一日入学？

一日入学で
付けたい力は？

一日入学は、「幼児が一日、一年生になれる日」です。
幼児も児童も育つ、互恵性のある交流活動とするた
めに、幼児の実態や願いを踏まえた内容を子供と一
緒に考えることが大切です。

交流活動 成功のポイント！

～計画は緻密に、実践は大胆に、反省は誠実に～

- 1 交流活動をイベント化しない～何のための活動か～
・教育課程上に明確に位置付ける
- 2 単元計画(見通しとゴールイメージ)



【学びの可視化と連続性】
板書の拡大写真を教室後方に
掲示し、できたものにはお花
をつける(例:「プレゼントを
完成させる」)

電話、FAX、連絡会等を
有効活用！

【交流会当日までの計画表】

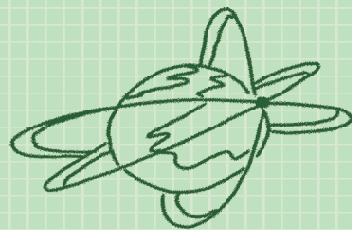
- 3 園との事前・事後のやりとりは必須！
【事前】子供の実態を確認しながら、交流計画案に基
づき、ねらいや内容等を一緒に考える。
【事後】ねらいが達成できたか、交流で育った力は何
かなど、有効な支援、環境、改善点について共
有する。(振り返り)
- 4 子供の経験や思い・願いを存分に生かす
- 5 幼児に事前のミッションを出す(当日が楽しみに！)
・お店屋さんのお金として使うどんぐり集めなど
- 6 当日、保育者・教師は、子供を見守る、任せる
- 7 交流計画等は記録に残し、次の活動や次年度の
交流に活かせるようにする

学校ファイルサーバ内の資料もご活用ください！

・「交流振り返りシート(交流5)」, 過去の交流活動計画例, 交流活動計画様式

【学校ファイルサーバ→全員共有フォルダ→現年度フォルダ→令和6年度→◆就学前教育班】





保幼小連携・接続実践事例パンフレット

『保幼小連携・接続でのびる子供たち』について



学習指導要領等(平成29年3月告示)において、幼児期の教育から小・中・高等学校まで含めた全体を見通して育成を目指す資質・能力が整理され、幼児期からの学びと育ちを小学校以降につないでいくことの大切さがこれまで以上に重視されています。幼稚園教育要領等においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」がまとめられ、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図るための手掛かりが示されました。この手掛かりを基に、小学校へ入学した児童が安心して、主体的に自分の思いを言葉や行動で表しながら成長し、小学校の学び手として歩んでいくようになることが期待されます。

本パンフレットは、文部科学省「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」のモデル地域におけるこれまでの実践を中心にまとめたものです。

本市では、保・幼・小連携推進地区事業実施校区(41小・義務教育学校, 128園)において、各校区の実態に応じた取組が進められています。各校区における、保幼小連携・接続の取組(人をつなぐ・組織をつなぐ・教育をつなぐ)を更によりよいものにしていくための資料としてご活用ください。



高知市教育委員会